

復刊に際して

本書は、『目の眼』（里文出版）において昭和五十九年七月号（第九十二号）から同六十一年十一月号（第一二一号）まで二十八回にわたって連載された文章を編集し直し、昭和六十二年七月十三日付で淡交社より書籍として発刊した『風流紳士録』の復刻本です。

本書の著者である池田瓢阿氏とは、戦前より平成にかけて二代瓢阿として活躍した籠師であり、時の大数寄者・益田鈍翁より薰陶を受けた一人です。また、戦後には竹芸教室「竹樂会」を設立し、万人に籠づくりの楽しさを広めるとともに、多くの茶会や展示会などを通して風流人と呼ばれ、上品で優雅な趣きのある人々と交流を持ちました。その回顧録ともいえる本書を通して近代茶の湯の息吹の一端を感じとつていただければ幸いです。

なお、本文中に現在では一部不適切とされる表現がありますが、当時の世相を反映して出来るだけそのまま掲載しております。

風流紳士録 篠師が見た昭和の粹人たち 目次

近衛文磨公 6

文磨公の茶杓／草相撲の日々

水谷川忠磨さん 24 貴公子の風流 36

木戸幸一さん 36

岡部長景さん 41

伊東祐淳さん 46

細川護貞さん 52

大河内風船子さん 55

鈍翁、益田孝さん 59

横井半三郎、夜雨さん 69

財界茶人素描

76

團琢磨さん 76

藤原銀次郎さん 78

正木直彦さん 83

即翁、畠山一清さん 86

耳庵、松永安左エ門さん 88

三井家の数寄者

91

三井守之助さん 93

三井高大さん 98

三井八郎右衛門さん 102

吉田吉之助さん

107

中村一雄さん

133

荒川豊蔵さん

161

168

133

高原杓庵さん

102

88

小森松菴さん

183

ふたりの数寄茶人

202

北村謹次郎さん

202

湯木貞一さん

210

京洛の風流散歩

219

あとがき

236

思い出のアルバム

239

登場人物の略歴

280

復刻によせて（父、二代・池田瓢阿の人生）

三代・池田瓢阿